

「阿蘇の草原キッズになろう！ 野焼き編」事業報告書

企画指導専門職 安部 信吾

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 阿蘇郡市内の子供たちに、阿蘇の草原環境の現状を学ばせると共に、草原維持活動(野焼き)を実際に体験させることで、草原環境保全への意識を高めさせる。また、野焼きに携わる人々との出会いを通して、いろいろな生き方・考え方に気づかせ、地域を愛し、地域をよりよくしようとする心を育成する。

(2) 期 日

	阿蘇市立阿蘇小学校	阿蘇市立一の宮小学校	高森中央小・高森東学園
事前学習	平成 30 年 1 月 24 日(水)	平成 30 年 2 月 20 日(火)	平成 30 年 1 月 26 日(金)
野 焼 き	平成 30 年 2 月 27 日(火)	平成 30 年 2 月 23 日(金)	平成 30 年 3 月 7 日(水)

- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家(野焼き)、町古閑牧野(野焼き)、各小学校(事前学習)
- (4) 参加者 阿蘇市立阿蘇小学校 5 年生 41 名
阿蘇市立一の宮小学校 4 年生 83 名
高森町立高森中央小学校 4 年生 44 名
高森東学園義務教育学校 4 年生 5 名(事前学習のみ)
- (5) 講 師 市原 啓吉 氏(町古閑牧野組合長) 木部 直美 氏(阿蘇グリーンストック)
小段 賢 氏(阿蘇グリーンストック) 野焼きボランティア 24 名
- (6) 担当職員 安部 信吾(企画指導専門職) 小宮 広明(事業推進室長)
山下 正晃(企画指導専門職) 松元 延行(事業推進係長)
古賀 久恵(事業推進係員) 志賀 泰成(事業支援室主任)
宇戸口 健(事業支援室係員)
- (7) 内 容 ・事前学習：野焼きについての学習、火消し棒づくり
・野焼き：たいまつづくり、野焼き体験

2 成果と課題

(1) 成 果

- 今年度から対象校を 1 校増やし、多くの小学生に草原学習の場を提供することができた。
- 「これからは私たちがきれいで豊かな阿蘇の草原を守るために、野焼きを今の人たちから私たちに、そして私たちから未来の人たちにとバトンタッチをしていくことが大切だと思いました。」
「大人になったらボランティアに入りたいなと思いました。」などの感想が見られ、阿蘇の草原の大切さを学ぶとともに、自分も草原保全に関わっていきたいという意欲も養うことができた。
- 参加者の服装について、事前学習において十分な指導を行うとともに、野焼きの服装についての資料を参加者に配布し、保護者の協力が得られるようにした。また、綿の上着が準備できなかった参加者には交流の家にある上着を着用させて、安全管理に努めることができた。

(2) 課 題

- 町古閑牧野での野焼きの際、延焼することがなく、火消し棒での火消し体験が十分できなかったという声が子供たちからあった。火消し場面がなかった場合は、火消し体験の時間を作ってもよかった。
- 子供たちの待機時間が長くないように、火入れ班と火消し班を設定したが、うまく機能しなかった。火入れを 2 か所から行ったことで、待機時間も長くなり十分な野焼き体験ができたが、事前に野焼き場所の確認や火入れ場所等を市原さんと確認できているとよい。
- 野焼き本番が、積雪や降雨のため何度も延期になった。降雪の時期を外して、2 月の中旬頃からの日程を決めておいた方がよかった。
- 薄着で寒がっている子どもがいたので、寒さ対策についても事前に伝えておくようにする。

3 事業の様子



野焼きについての事前学習



野焼き体験時の服装についての話



野焼きリーダーさんと火消し棒づくり



たいまつづくり



マッチで火つけ体験



野焼き体験（町古閑牧野）



火消し体験（交流の家）



閉会式での感想発表